

## エフエム八ヶ岳番組審議会報告

エフエム八ヶ岳はリスナーの皆様のご意見を番組制作に反映させ、より良い番組づくりに努めております。放送内容について皆様からのご感想、ご意見をお待ちしております。今後の番組制作の資料とさせていただきますので、どうぞお気軽にお寄せください。

### ■2020年8月

エフエム八ヶ岳8月の番組審議会の議題は番組「アートカフェ@ラジオ」(毎週土曜午前11時から11時15分、日曜再放送)。2年目の番組ですが、大学の美術担当教授が喫茶店のマスター役で、常連客やゲストらと絵画紹介や芸術作品鑑賞の仕方など、アート談義を繰り広げています。今回は甲府・山梨県立美術館の展覧会などを題材に2回放送分、出演者数を3人から5人にしての実験的な番組を放送しました。放送内容について、審議委員6名の主な意見は次の通りです。

- ・この番組は県内で最も多い34の文化施設を持つ北杜市にあって、そこから発信する地域性に富んだよい番組だと思う。今回はティンカリングのここと、県立美術館での障がい者作品展の話題だが、デジタル時代にある意味で警鐘を鳴らす創作活動の大切さや物事の原点、仕組みをテーマにしていると考えさせられた。
- ・初めて聞いた人にもわかるように、出演している人の紹介を少ししてもよいと思う。
- ・マスターの進行が上手であるとともに、登場人物の話が具体的で聞きやすかった。
- ・継続して聞く番組のようで、単発で聞くと、ついていくのに少し時間がかかった。
- ・情報を見たり聞いたりするだけでなく、自分の手を使って何かを創造するのがよいという話と障がい者の作品展の話、内容的にはどちらの放送も良かった。
- ・ティンカリングというあまり知らない世界の話で、興味を持って聞いた。特定の絵画ではなく、今回のように「ティンカリング」といった話題もよいと思う。
- ・ティンカリングという聞きなれない言葉だったが、工作の話は現代の私たちがすぐに答えの出るものに価値を置きがちなか中、頭や手を動かして時間をかけて作ることの大切さを教えられた。
- ・アートの世界だけでなく、いろいろ違ったジャンルの人を混ぜて、専門性のぶつかり合い、あるいは共通性など話が転がっていくような番組制作を考えてみたらいかがか。
- ・5人出演だと、やはり声がかぶったりするので、従来のように少し人数を絞ったほうがいいかなという気がする。落ち着いた番組にしたほうが、内容的には合っていると思った。あまり気負わず、のんびりした雰囲気で行けたらよいと思う。
- ・障がい者のアート展の放送はもっと、内容の紹介が欲しかった。
- ・障がい者の作品展の放送は、マスターの「障がいを持つ人は素直に自己表現できるすばらしさがある。美は見る人の心の中にある」という言葉に感銘を受けた。